



NATIONAL  
UNIVERSITY  
ADMISSION  
CENTERS

国立大学アドミッションセンター  
連絡会議ニュース

第13号 平成28(2016)年4月



# 国立大学アドミッションセンター 連絡会議ニュース



文部科学省・山口大学改革官



田原会長による挨拶



会場となった「東京電機大学東京千住キャンパス 1号館」



# 第13回総会を開催

平成27年5月27日（水）13時から、東京電機大学東京千住キャンパス1号館1階100周年ホールにおいて、国立大学アドミッションセンター連絡会議第13回総会が開催されました。

寺下事務局長より開会の辞の後、議事に先立ち、文部科学省高等教育局より来賓としてご臨席された山口大学改革官からご祝辞とご挨拶をいただきました。

山口大学改革官からのご祝辞とご挨拶のなかにおいては、昨年12月の中教審答申を受けて、文部科学省は、本年1月に「高大接続改革実行プラン」を策定し、そのスケジュールに基づき2月に高大接続システム改革会議を発足し議論しており、本年夏頃を目途に中間まとめを予定している旨説明があり、入試改革の実現に向けて取り組んでほしい、活発な議論を期待したい旨締めくくられました。

次いで、議事に入り、次第に基づき、役員の改選及び会計報告が行われた後、引き続き、大学からの報告として、東北大学 石井 光夫教授から『「大学入試改革にどう向き合うか」—東北大学高等教育フォーラムでの議論から見えてきたもの—』について講演していただき、参加者との活発な意見交換が行われました。

最後に、新役員として、田原会長（岡山大学副学長・アドミッションセンター長）及び船橋事務局長（富山大学教育・学生支援機構アドミッションセンター副センター長）からそれぞれ挨拶があり、第13回総会を終了しました。

以下は、総会議事要録、石井教授の講演要旨です。ご覧いただきますようお願いいたします。

## 【参考】会計報告（当日資料1）

### 平成26年度国立大学アドミッションセンター連絡会議運営費会計報告

平成26年4月1日～平成27年3月31日

収入の部		支出の部	
	円		円
前年度繰越	576,460	連絡会議ニュース 第11号	171,720
会費（加盟24大学）	480,000	第12回総会会場（アイーナ）・ 機材等使用料	23,630
		次年度繰越	861,110
計	1,056,460	計	1,056,460



## 国立大学アドミッションセンター連絡会議 第13回総会議事要録

- 1 日 時 平成27年5月27日(水) 13:00～14:30
- 2 場 所 東京電機大学東京千住キャンパス1号館1階100周年ホール
- 3 次 第
  - 1 役員の改選について
  - 2 会計報告について
  - 3 その他

### 開 会

寺下事務局長による開会挨拶により、第13回総会を開始した。

議事に先立ち、文部科学省高等教育局山口大学改革官から来賓挨拶をいただいた。

### 議 事

#### 1. 役員の改選について

寺下事務局長から、会則に基づき役員の改選について説明があり、会長は、岡山大学の田原副学長・アドミッションセンター長、事務局長は、富山大学の船橋教育・学生支援機構アドミッションセンター副センター長が選出され、承認された。

#### 2. 会計報告について

寺下事務局長から、資料1に基づき会計報告が行われ、承認された。

#### 3. その他

なし

### 特別レポート

東北大学 石井 光夫教授から『「大学入試改革にどう向き合うか」—東北大学高等教育フォーラムでの議論から見えてきたもの—』と題して講演が行われた後、参加者との活発な意見交換が行われた。

### 閉 会

田原新会長及び船橋新事務局長から役員就任の挨拶があった。

寺下事務局長より、定年のため今年度末で本会議を退会する旨挨拶があった。



加盟大学からの活動報告

# 東北大学

## 「大学入試改革にどう向き合うか」

—東北大学高等教育フォーラムでの議論から見えてきたもの—

石井 光夫（東北大学入試センター）

国立大学アドミッションセンター連絡会議総会

平成27年5月27日



## 大学入試改革にどう向き合うか

—東北大学高等教育フォーラムでの  
議論から見えてきたもの—

東北大学入試センター

石井光夫

1

## 報告内容



1. 第22回東北大学高等教育フォーラム
2. 基調講演 (1)土井教授(2)川嶋教授
3. 報告 (1)高校から (2)東北大学から
4. 総括—議論から見えてきたもの

2





## 1. 第22回東北大学高等教育フォーラム

「大学入試改革にどう向き合うか  
—中教審高大接続答申を受けて—」

日時 平成27年5月15日(金) 13:00~17:00 会場 東北大学百周年記念会館 川内萩ホール

- I 開会 開会の辞 里見 進 東北大学総長
- II 基調講演1 「中教審高大接続答申を読む  
—大学入試改革を着実に実現するために—」  
京都大学大学院法学研究科教授 土井 真一 氏
- 基調講演2 「国立大学の入試改革の歴史と展望」  
大阪大学未来戦略機構教授 川嶋 太津夫 氏
- III 現状報告1 「高校現場から見た大学入試改革」  
福島県立福島高等学校教諭 浜田 伸一 氏
- 現状報告2 「大学入試改革モデルとしての『東北大学型AO入試』」  
東北大学高度教養教育・学生支援機構准教授 倉元 直樹 氏
- IV 討議
- V 閉会 閉会の辞 花輪 公雄 東北大学理事

3



## 2. 基調講演(1) 土井教授①

- 中教審高大接続部会の審議経過および答申文を解説。

### ◎大学の個別試験について

#### (1) 大学独自の学力試験を認めるか否か

「新テストに加え、思考力・判断力・表現力を評価するため、自分の考えに基づき論を立てて記述する形式の学力評価を個別に課すこともあってよい」

→学力試験が認められたと解釈。

→ただし、「学力評価」であり、より思考力等重視の総合的な力を試す試験への工夫必要か。

4



## 2. 基調講演(1) 土井教授②

#### (2) 多面的評価は全受験者対象か

- 学力試験重視の選抜枠と評価書や面接等を重視する選抜枠を組み合わせることをもって「多面的・総合的」評価とするか議論。

→安西会長は全受験者への適用との考え。

→ただし、十分な実施体制(人員・日程)なければ学力評価テストでの第1段階選抜は大規模に実施せざるを得ない。

→大学と高校の十分な連携のもとに各大学の創意工夫を尊重して多様な多面的評価方法を認めていくのが適切ではないか。

- まとめ

理念・目標を明確にするとともに、入学者選抜の実務に混乱を生じさせないように、着実な実施と実証的な検討を積み重ねて、その目標を実現していくことが求められる。

5





## 2. 基調講演（2） 川嶋教授①

国立大学入試改革を解説

→繰り返す学力試験と多面的評価の歴史 戦前から

H19年国大協「平成22年度以降の国立大学の  
入学者選抜制度-国立大学の基本方針-」

- 第2期中期目標期間における国立大学共通の「アドミッション・ポリシー」という位置付け
- 国立大学入試:「公共的性格」を有する
- 適切な高大接続の実現(5教科7科目高校における普遍的学習の成果を把握する仕組み)
- 分離分割方式の理念の継承(受験機会の複数化、選抜方式の多様化、評価尺度の多元化)
- 定員分割の単位は募集単位に関わりなく原則学部
- 後期日程試験に募集人員を多く配置することも可能
- 今後の課題:①学年歴②学生定員③大学入学資格(高校卒業)④調査書活用

今もこの基本方針は生きているはずだが・・・

6



## 2. 基調講演（2） 川嶋教授②

国立大学入試の今後？

- ミッション再定義、機能強化(3類型化?)により、国立大学が多様化

→共通のアドミッション・ポリシーは可能か？

- 国主導の入試改革へのreactive(後手)対応

→これまでのように入試改革をproactiveに(先取りして)リードできるか？

第3期中期目標期間における入試の在り方のビジョンがない!(作れない)

素朴な疑問:入試区分をなくしたら、分離分割方式はどうなるのだろう・・・?

我が国の教育研究を中心的に担ってきた国立大学が、英知を結集して入試改革に取り組むべきでは

7



## 3. 報告（1） 浜田教諭①

◎「大学入試改革の一体的改革」実施にむけての課題(不安)

- ①「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」教科知識を問う入試から思考力・判断力・表現力を中心に問う総合的仕組みへの転換について
  - ア. 作問(総合型、合教科型)の難しさと評価の公平性
  - イ. 活用力への対応による知識、技能不定着への不安
  - ウ. 教科を越えての対応を教育課程の中にどう位置づけていくか
  - エ. 中高一貫校、塾や業者、SSH,SGH指定校との学校間格差や教育格差拡大の懸念

8





### 3. 報告（1） 浜田教諭②

#### ②複数回実施について

- ア. 社会的汎用能力を培ってきた、学校行事（修学旅行、学校祭など）、部活動といった学校文化喪失の可能性
- イ. 資格取得との両立
- ウ. 3年次での進路変更への対応

◎これまでの高校教育での実践は求められる（高大接続の）教育理念につながらないのか。

- ア. キャリア教育や学力向上を柱に据えた進路指導「総合的な学習の時間」の課題解決型の学び
- イ. 授業における主体的、協同的な学びを可能にするアクティブ・ラーニング

→入試改革によってこれまで培ってきた高校での学びや学校文化が破壊されないよう望む。

9



### 3. 報告（2） 倉元准教授①

#### 教育再生実行会議と東北大学

- ・ 平成25年8月1日視察 同10月31日提言発表
- ・ 翌11月1日朝日新聞 人物本位の選抜 の参考として報道
- ・ 教育再生実行会議にご理解いただけなかったこと
  - 東北大学のAO入試は 学力重視
    - ← 一般入試 の存在が前提のシステム
  - 第一志望受験生 のための特別な機会
    - ← 人物本位の選抜 なのか？

10



### 3. 報告（2） 倉元准教授②

#### 東北大学型AO入試の仕組み（1）

- ・ 大規模 なAO入試
  - 募集人員438名, 全体の 約18%
- ・ 共通要素は 面接, 志願理由書
  - 多くの教員が関与 → 学生への関心
  - 受験生が 進路を考える 機会の提供
- ・ AO入試のレベルの高さ
  - 多くの不合格者が一般入試で再挑戦
  - ← 一般入試前期日程個別試験 への準備が前提

11





### 3. 報告（2） 倉元准教授③

#### 東北大学型AO入試の仕組み（2）

- 選抜方法に含まれる アカデミックな要素
  - AOⅡ期では小論文, 適性試験等
  - AOⅢ期では大学入試センター試験
- 第1志望の受験生を作る努力
  - 特色ある オープンキャンパス
  - 広報に熱心な大学 第1位

12



### 3. 報告（2） 倉元准教授④

#### 東北大学型AO入試の仕組み（3）

- 根底にある発想
  - 受験勉強を含む現在の 高校教育への支援
  - 入試を通じて受験生を育てる
    - ← これ以上, どのように転換???
- 現在, 地方で行われている 高校教育が成立しなくなると東北大学の入試は機能不全に陥る

13



### 3. 報告（2） 倉元准教授⑤

#### 今後の展望

- 現時点で具体的な展望を描くのは難しい
- 個別大学としてこれまでの 入試改革への姿勢 は継続すべき
- ただし, 高校教育を破壊 するものであってはならない
- 高校, 大学関係者をはじめ, 様々なお立場の皆様から お知恵を授かりたい

14





#### 4. 総括一議論から見えてきたもの（1）

##### 1. 「個別選抜」の改革

- 中教審答申：
  - 「画一的な一斉試験で正答に関する知識の再生を問う」
  - 偏った評価 を改め→
  - 「多様な背景を持つ一人ひとりが積み上げてきた多様な力を、多様な方法で『公正』に評価」
  - 「学力の三要素を踏まえた多面的な選抜方法」
  - 「『主体性・多様性・協働性』や『思考力・判断力・表現力』を含む『確かな学力』を、高い水準で評価」
  - 「年齢、性別、国籍、文化、障害の有無、地域の違い、家庭環境等にかかわらず、多様な背景を持った学生の確保」

15



#### 4. 総括一議論から見えてきたもの（2）

- ここから読み取れるものは
  - ①筆記試験を偏重しない
  - ②多様な選抜方法・多元的な評価
- 理念的には臨教審以来の入試改革に通じる
  - 「多様化・多元化」の推進
  - 1990年代以降 推薦入試の拡大・AO入試の導入普及 現在入学者の半数近くを占める
- 今回どこが違うのか？
  - 一般入試を含めた「抜本的改革」
  - 全AO入試化 100%をAO入試で選抜する  
(中教審会長の強い意向)

16



#### 4. 総括一議論から見えてきたもの（3）

- 中教審答申 具体的な評価方法：「『大学入学希望者学力評価テスト（仮称）』に加え、小論文、面接、集団討論、プレゼンテーション、調査書、活動報告書、大学入学希望理由書や学修計画書、資格・検定試験の成績、各種大会等での成績や顕彰の記録」
- は、AO入試そのもの。
- では、100%AO入試化は可能か。
  - 大学に突きつけられた課題：
    - ①人員の確保
    - ②日程の確保 学事暦の調整
    - ③学科筆記試験の在り方

17





#### 4. 総括一議論から見えてきたもの（4）

##### ①人員の確保 ②日程の確保 その1

外国の例：

- ・ ハーバード大学 入学決定委員会(35名, 教員は18~20名, 他専門職員)が約3か月かけて書類選考。
- ・ スタンフォード大学 12名専門職員と6~8名の臨時職員が3か月以上かけて書類選考。
- ・ オックスフォード大学 カレッジの教員ほとんどが担当。書類選考1か月半程度の後, 面接1週間程度。(以上文科省)
- ・ ソウル大学 入学査定官 専任26名 委嘱教員100名が書類選考, 面接を担当。9月~12月の間に各種募集・選考(地域均衡入試, 特技者対象入試等)を実施。(石井調べ)

18



#### 4. 総括一議論から見えてきたもの（5）

##### ①人員の確保 ②日程の確保 その2

日本の大学の特徴：

- ・ 学部・学科ごとの入試。学部をまたぐ大きく入り入試はまれ。(米国との決定的な違い)
  - 学部教員が自らの学生を選抜。他学部教員・AO職員の活用には自ずと限界。
  - 今後の入試において「意欲・適性」等の評価も学部・学科の専門分野との関連づけが必要。
  - 学部教員の役割・活用がいぜん続く。

19



#### 4. 総括一議論から見えてきたもの（6）

##### ①人員の確保 ②日程の確保 その3

東北大学の場合：

- ・ 工学部AO入試Ⅱ期 書類の様式確認は職員1~2週間  
教員約40名が面接試験 約15名が書類審査  
約15名が小論文試験採点 各1~2日  
のべ教員70人(/教授120人) 4~6日 受験者300人前後
- ・ これを工学部一般受験者1800人に適用すると,  
教員420人(4~6日)(工学部全教員350人)  
または24日~36日(70人の場合)の作業になる  
教育・研究活動および学事暦を全面的に見直す必要あり

20





## 4. 総括一議論から見えてきたもの（7）

### ③学科筆記試験の在り方 その1

外国の例：

- ・ 米国 共通試験SAT I, SAT II（数科目）, ACTなど外部試験
- ・ イギリス 共通試験GCE-Aレベル(3科目程度)
- ・ フランス 共通試験バカロレア試験
- ・ ドイツ 共通試験アビトゥア試験
- ・ 韓国 共通試験大学修学能力試験。大学ごとの試験は禁止。
- ・ 中国 全国統一入試。独自事前選抜（自主招生）（入学者の1%弱）でも大学が学科筆記試験を実施。
- ・ 台湾 2種類の共通試験。独自選抜（甄選入学）個人申請入学（入学者の40%）で一部大学・学科が学科筆記試験。

21



## 4. 総括一議論から見えてきたもの（8）

### ③学科筆記試験の在り方 その2

- ・ 以上の外国では、中国・台湾を除き、大学が個別に学科筆記試験を実施している国はない。中国・台湾も限定的。韓国は以前実施も2002年から全面禁止。  
→日本は特殊な例外か？
- ・ 外国で学科筆記試験の点数1点刻みで選抜している国は、中国・台湾の一般入試のみ。中国99%，台湾40%。  
→共通試験点数の段階表示は諸外国に例有り（英・韓・台）

22



## 4. 総括一議論から見えてきたもの（9）

### ③学科筆記試験の在り方 その3

- ・ 以上の外国の例から、大学入学希望者学力評価テスト（仮称）が十分機能すれば、大学個別の学科筆記試験を実施しないことも制度としてはあり得る。  
→ただし、諸外国の共通試験はSATを除き、すべて教科型。中国では「文科総合」「理科総合」試験を実施も、教科・科目ごとの設問の「総合型」（特に理科総合）。  
→大学入学希望者学力評価テスト（仮称）は教科型を残しつつ、重点は「思考力・判断力・表現力」をみる「合教科・科目型」「総合型」試験。

23



## 4. 総括一議論から見えてきたもの (10)



### ③学科筆記試験の在り方 その4

- 大学(選抜性が高い)の最大の関心は現在の「学力の保証」機能が維持されるか否か。この場合の学力は教科型の知識・技能, 思考力・判断力・表現力。
  - 大学入学希望者学力評価テスト(仮称)が万が一学力保証で十分機能しなかった場合
    - 大学が独自に対応を考えなければならない。
    - 中教審答申が認めた「学力評価」による「学力の保証」への工夫が求められる。
- ただし, 現行の筆記試験と異なる試験(思考力や総合的な力を試す)が必要か(土井)

24

## 4. 総括一議論から見えてきたもの (11)



### 2. 高校教育への影響(不安・懸念)

- 活用力対応への影で知識・技能不定着
- 活用力対応で学校間格差や教育格差拡大
- 活用力育成のための従来の創意工夫(キャリア教育, 課題解決型学習, アクティブ・ラーニング等)との関係(新テストで圧縮?)
  - 知識・技能(基礎的学力)の定着や活用力育成は選抜性の高い大学の学生募集前提要件。これが揺らぐと学生の質の維持が困難。

25

## 4. 総括一議論から見えてきたもの (12)



### まとめ

- 新テストの具体的設計が固まらない現段階で, 大学の個別選抜の改革は見通せない。
- 新テストが機能したとしても一挙に100%AO入試への転換は至難。
  - これまでの多様化・多元化改革を検証しながら, 実証的に着実に「多面的・総合的」入試の漸進的な拡大を。
- 国立大学としての共通の枠組みを再構築できるかも課題に。

26





ご清聴有り難うございました



# 国立大学アドミッションセンター連絡会議会則

平成15年6月4日制定  
最終改正 平成25年6月5日

## (名称)

第1条 本会は国立大学アドミッションセンター連絡会議と称する。

## (目的)

第2条 本会は、高等学校・大学間の接続関係の改善及び加盟機関における入学者選抜等の業務改善に関する研究協議を行い、あわせて加盟機関相互の交流促進を図ることを目的とする。

## (事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、必要な事業を行う。

## (構成員)

第4条 本会は、国立大学のアドミッションセンター、及び国立大学において高等学校・大学間の接続関係の改善に関する研究及び実践に携わる機関によって構成する。

2 本会の加盟機関は、別表に掲げる機関とする。

3 新たに入会しようとする国立大学の機関は、総会の承認を得るものとする。

## (役員)

第5条 本会に以下の役員を置く。

一 会長 1名

二 事務局長 1名

三 運営委員 各加盟機関からの代表 1名

四 幹事 運営委員の中から会長の委嘱 6名

2 会長及び事務局長は総会において選出する。任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の会長及び事務局長の任期は、前任者の残任期間とする。

3 役員は加盟機関の代表をもって、これにあてる。

## (役員の仕事)

第6条 会長は、総会を招集し、その議長となる。

2 会長が欠けたときは、事務局長がその職務を代行する。

3 事務局長は、本会の運営に必要な事務全般を行う。

4 運営委員は、本会の運営に携わる。

## (総会)

第7条 総会は、加盟機関の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。

2 総会の議事は、出席した加盟機関の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。



(加盟機関以外の出席)

第8条 会長が必要と認めたときは、加盟機関以外の者を総会に出席させ、意見を聴くことができる。

(事務局)

第9条 本会に、本会の事務を処理するための事務局を置く。

2 事務局は、事務局長の所属する機関に置く。

(雑 則)

第10条 この会則に定めるもののほか、事業の実施に関し必要な事項は本会が別に定める。

附 則

この会則は、平成15年6月4日から施行する。

附 則

(略)

附 則

この会則は、平成25年6月5日から施行する。



## 別表（第4条第2項関係）

北海道大学アドミッションセンター  
旭川医科大学入学センター  
岩手大学大学教育総合センター  
東北大学入試センター  
山形大学エンロールメント・マネジメント部  
茨城大学入学センター  
筑波大学アドミッションセンター  
横浜国立大学大学教育総合センター  
福井大学アドミッションセンター  
富山大学アドミッションセンター  
静岡大学全学入試センター  
京都工芸繊維大学アドミッションセンター  
鳥取大学入学センター  
岡山大学アドミッションセンター  
広島大学入学センター  
山口大学アドミッションセンター  
香川大学アドミッションセンター  
愛媛大学アドミッションセンター  
高知大学総合教育センター  
九州大学アドミッションセンター  
佐賀大学アドミッションセンター  
長崎大学アドミッションセンター  
鹿屋体育大学アドミッションセンター  
琉球大学アドミッション・オフィス



## 国立大学アドミッションセンター連絡会議役員

会 長：田原 誠（岡山大学 副学長 アドミッションセンター長）  
 事務局長：船橋 伸一（富山大学教育・学生支援機構アドミッションセンター副センター長）

運営委員：下表

幹事	大 学 名	氏 名	役 職 名
○	北海道大学	鈴木 誠	高等教育推進機構高等教育研究部門教授
	旭川医科大学	坂本 尚志	副入学センター長
	岩手大学	丸山 仁	入試委員会委員長
○	東北大学	石井 光夫	高度教養教育・学生支援機構 高等教育開発部門入試開発室教授
	山形大学	鈴木 達哉	エンロールメント・マネジメント部講師
	茨城大学	泉岡 明	アドミッションセンター長
○	筑波大学	島田 康行	アドミッションセンター長
	横浜国立大学	海老原 修	高大接続・全学教育推進センター 高大接続部門長
	福井大学	大久保 貢	アドミッションセンター教授
○	富山大学	船橋 伸一	教育・学生支援機構アドミッション センター副センター長
	静岡大学	雨森 聡	全学入試センター准教授
	京都工芸繊維大学	内村 浩	アドミッションセンター担当教授
	鳥取大学	森川 修	入学センター准教授
○	岡山大学	田中 克己	アドミッションセンター教授
	広島大学	杉原 敏彦	入学センター長
	山口大学	岩部 浩三	アドミッションセンター長
	香川大学	真鍋 芳樹	アドミッションセンター副センター長
	愛媛大学	深田 昭三	アドミッションセンター長
○	高知大学	永野 拓矢	アドミッションセンター長
	九州大学	林 篤裕	基幹教育院教授
	佐賀大学	西 郡 大	アドミッションセンター副センター長
	長崎大学	星野 由雅	大学教育イノベーションセンター 副センター長
	鹿屋体育大学	前阪 茂樹	アドミッションセンター長
	琉球大学	吉田 安規良	グローバル教育支援機構 アドミッション部門長



## 編集後記

### ご挨拶

このたび事務局長の任をお受けすることになりました。今後、入試改革は、試験選抜が機能している大学すべてにおいて行われる可能性が高く、それゆえ連絡会議においても、情報交換を行っていきたいと考えています。

私事で恐縮ですが、10代の時、イギリスのオックスフォード大学とセント・アンドルース大学を受験しました。そこで行われている試験は、1点刻みというより、面接や思考力を試すものであったことが強い印象として残りました。今後は日本の大学入試においても、しっかりと学生を見極めることが、今まで以上に重要になってくると思われます。

### 群盲象を評す

大学入試改革を行う際は、多面的に考える必要があると思われまゝ。私が高校時代からよく用いる寓話のひとつに、生まれながらの盲人たちが、初めて象を見に行くという話があります。

まず、象の足に触れた盲人は、「象はまるで柱のような生き物です」と答えます。つぎに尻尾に触れた盲人は、「象はまるでロープのような生き物です」と答えます。そして耳に触れた盲人は、「象はまるで団扇のような生き物です」と答えます。また牙に触れた盲人は、「象はまるで槍のような生き物です」と答えます。こうして盲人たちは象がどんな生き物なのかについて話し合いますが、結論が出ませんでした。

この話を大学入試改革に当てはめると、大学教員側の視点、高校教員側の視点、受験生側の視点と様々な視点があると思われまゝ。そして、これらすべての視点が正しいものの、互いを尊重して全体“象”をみた改革を行わなくてはならないと思われまゝ。

### お礼

本号の発行にあたっては、加盟大学のみなさまのご協力を得ました。

末筆ながら、昨年度末で静岡大学を定年退職された全学入試センター長の寺下榮先生（前任事務局長）、そして村松先生のご貢献に謝意を表したいと思ひます。この場をお借りしまして、厚くお礼申し上げます。

平成28年4月 事務局 船橋伸一（富山大学）

国立大学アドミッションセンター連絡会議ニュース 第13号

発行：国立大学アドミッションセンター連絡会議

編集：富山大学教育・学生支援機構アドミッションセンター（連絡会議事務局）

〒930-8555 富山市五福3190 富山大学 学務部入試課

nyusi-2t@adm.u-toyama.ac.jp





国立大学アドミッションセンター  
連絡会議ニュース 第13号

発行：国立大学アドミッションセンター連絡会議  
編集：富山大学教育・学生支援機構アドミッションセンター（連絡会議事務局）  
〒930-8555 富山市五福 3190 富山大学 学務部入試課  
nyusi-2t@adm.u-toyama.ac.jp